

2019年10月11日

原子力規制委員会

委員長 更田 豊志 様

オール福井反原発連絡会

代表 中 嶋 哲 演

嶋 田 千 恵 子

不正資金還流の真相究明と老朽原発を再稼働させないでください

原子力発電所の安全稼働の為に日々努力されている貴職に敬意を表します。

さて、9月27日に一斉に報道された関西電力幹部と元高浜町助役、関電から工事を請けた建設会社による3億2千万円にも上る巨額資金の不透明な流れは、法律に抵触する大問題であることから多くの国民からその行方が注視されています。

関西電力社長などによる会見では、3億2千万円にも上る金品を「預かった」とか元助役からの金品提供の出所について「分からない」と説明しています。

そしてこれらの金品を「既に返した」と言い、自分たちには罪はなく、被害者であるかのようなことを言い続けています。

この問題は、誰が考えても原発工事を巡る買収・供給としか考えられません。

それにも関わらず「私たちは悪くない」と言い続け、この問題を闇の中に葬り去ろうとしているのです。

この不正に流れた資金は、電気料金などであり国民のお金とも言えることから、早期に真相究明して関西電力幹部の責任を追及しなければなりません。

原子力規制委員会として、関西電力に徹底的な調査を行い、真相究明をするよう求めて頂きますようお願いいたします。

さて、関西電力は、建設後45年を超えた高浜原発1号機、44年を超えた2号機、43年を超えた美浜原発3号機の老朽原子力発電所を動かそうとしています。

原子力発電所は、堅固な建物で覆われ、厳重に管理された機器で運転されていますが、原子炉の中で発生する強力な放射線や中性子線が日々これらの物を大きく傷つけています。

長く運転を続けると圧力容器などがどんどん安全使用の限界を越えていくのです。

普通の機器は、耐えられなくなって壊れたとしても福井県のほとんどの住めなくなることや何万人もの健康を蝕み、命を奪うことなど考えられません。

脆くなった老朽原発は、緊急炉心冷却システムが作動した時などには、圧力容器が破壊され、核暴走事故につながる可能性が高いと危惧しています。

原発において核暴走事故が発生すると放出された放射能の影響で、人が近づいて事故を収束することは極めて難しく、撒き散らされた放射能により、福井県内には二度と住めなくなる可能性はとつても大きいのです。

同時に、放射能は県民の健康を蝕み命まで奪うことにもなりかねません。

現代社会において電気はとても大切なものです。

しかし、原発が作る電気であろうと太陽光発電で作る電気であろうと電気は電気なのです。

福島原発事故から5年間ぐらいは原発で作られた電気は全くなくても私たちの暮らしに支障は出ていませんでした。

現在でも原発で作られている電気は、僅かです。

原発での発電を止めて、極めてクリーンで再生可能な発電に切り替えていくべきです。

私たちの故郷を守り、私たちが今この地で暮らし続けられるように以下のことをお願いいたします。

記

- 1、関西電力幹部に3億円を超える金品が、元高浜町助役から提供されたことについて9月27日に一斉に報道されました。そこで、この問題の徹底的な真相究明と関係者の厳正な処分、再発防止策の策定と実施を関西電力に求めてください。
- 2、老朽原発である高浜1号機・2号機と美浜3号機を運転させないようにしてください。
- 3、老朽原発について私たちの意見を述べる場を作ってください。また、原子力規制委員会として住民の皆さんに老朽原発について説明会を開いてください。

以上